

## 特集：台湾たまご事情

当協会が事務局となっている鶏卵輸出準備分科会では、会員 10 名による鶏卵輸出先国調査として台湾を 2 月 28 日（日）～3 月 3 日（木）にかけて訪問しました。これは昨年 10 月に台湾が香港、シンガポールに続いて、「日本のたまご」の輸出可能国となったことからの調査行です。メンバーの中には香港、シンガポールでの調査の経験を持つ方も多く、今後の輸出拡大のために精力的に調査を行いました。主な調査の内容をかいつまんで、報告します。

### ①日程、面談先

- 2/28(日)： 午後) 台北到着ホテルチェックイン後 中山駅近辺量販店調査
- 2/29(月)： 午前) Naka's Office 訪問。台湾鶏卵事情について説明受ける。  
午後) 3 班に分かれ小売店調査。
- 3/1 (火)： 午前) 三燦貿易有限公司面談  
午後) 購入鶏卵商品検討会 (ホテル)、商田實業有限公司 (新北市中和區橋和路) 訪問、面談及び情報交換会。
- 3/2 (水)： 午前) 太冠國際開發事業有限公司 (新北市新店區中正路) 訪問、台湾家禽販売協会会長の事務所である華漢冷凍食品工業 (新北市五股) 訪問し、表敬と情報交換会、鶏卵販売業者・台湾中央畜産会同席  
午後) 海平餐飲学校での「台湾日本の畜産物フェア」 (台北市大安区) 参加、終了後小売店・外食店調査。
- 3/3 (木)： 午前) 総括会議 午後) 帰国 (8 名)、2 名は「日本の畜産物フェア」に参加して 3/5 (土) に帰国

### ②台湾基礎知識

人口 約 2,349 万人 (2015 年 12 月時点)  
訪台日本人 2015 年 162.7 万人で 2 位 (1 位は中国)

訪日外国人は 2015 年に過去最高の 1,973.7 万人を記録したが、その内訪日台湾人は 20%弱の 367.7 万人となっており、台湾は大いなる親日国である  
台湾の国土面積は、日本の 5 分の 1 (36,000 m<sup>2</sup>) で九州とほぼ同じ面積

## ③台湾鶏卵業界概要

表①鶏卵生産数量（2010年～2014年）

単位：千個

年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
個数（千個）	6,728,450	6,680,044	6,770,183	6,806,570	6,879,329
数量（トン）	403,707	400,803	406,211	408,394	412,760

（農業委員会統計）

この5年間での鶏卵生産は安定している。2011年以降は緩やかな右肩上がりの増加傾向となっている。

表②2010年～2014年までの鶏卵の農場出荷価格、小売価格（1kg当たり）

単位：台湾\$/KG

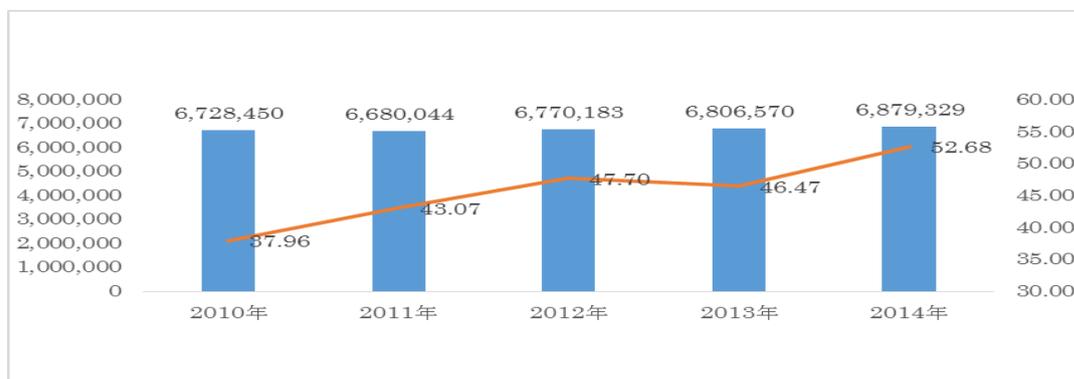
年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
農場価格(台湾\$/Kg)	37.96	43.07	47.70	46.47	52.68	53.25
農場価格(日本円/Kg)	105.77	116.94	128.74	152.86	183.87	203.24
小売価格(台湾\$/Kg)	46.81	50.41	56.39	55.14	62.16	60.49
小売価格(日本円/Kg)	130.43	136.87	152.20	181.38	216.96	230.88

（農業委員会統計）

台湾も日本同様に飼料穀物輸入国であり、近年の飼料穀物コストアップが卵価に反映されていると考えられる。

上記の生産量と価格推移を表にすると以下となる。

図①台湾鶏卵価格と生産量推移（2010年～2014年）



台湾では鶏卵の自給率はほぼ100%としており、輸入100%の香港とは大違いである。AIが猛威を振るう以前には、香港向けの供給国であった。

表③鶏卵自給率推移 (農業委員会)

年度	1989年	1995年	1999年	2002年	2006年	2010年	2014年
自給率	99.65%	99.67%	99.95%	99.96%	99.99%	100.03%	99.84%

台湾での羽数規模は一戸当たり 24,136 羽となっており、2 万羽以下が全体の 51%とまだ小規模経営が太宗を占める。(日本では 1998 年の平均羽数が 26,957 羽となっており、2014 年では 52,151 羽)

表④規模別農場分布 (2014 年)

	10,000 以下	10,000～ 19,999	20,000～ 29,999	30,000～ 39,999	40,000～ 49,999	50,000 以上	合計
世帯数	152	586	340	160	75	130	1443
%	10.53	40.61	23.56	11.09	5.20	9.01	100
羽数	1,126,075	7,779,096	7,356,012	5,070,542	2,863,360	10,634,000	34,829,085
%	3.23	22.34	21.12	14.56	8.22	30.53	100

## ④面談内容

### (1) 三燦貿易有限公司

- ・小売業（デパート、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、量販店、その他）の売上げが 10 年前と比べて 1.5 倍以上になっている。
- ・台湾人は「味付たまご」、「目玉焼き」として食べる事が多く生で食べる事は少ない。
- ・一般の消費者の購入の決め手は昔は安ければ良かったが、今は価格はもちろん大事だが機能性、産地、衛生状態を重視するようになった。
- ・台北は減ったが卵を扱う業者は米穀屋などの小さい問屋が多く米なども下ろしている業者が多い。
- ・業務用は常温、スーパーでは冷蔵（15℃-25℃）販売と常温販売がある。値段が若干違う。
- ・茶葉で煮た卵→茶卵がコンビニで販売されている。
- ・コンビニに生鮮食品を置き始めた。
- ・台湾国内での生産で消費をほぼまかなうことが出来ているため、わざわざ輸入する必要があるのか？卵は国内流通が確立されているため日本産のメリット

がないとダメ。台湾産は安く品質も良いため、ただ日本産と言うだけで高い物を消費者は買わない

- ・台湾国内ではトレーサビリティが導入されている

## (2) 商田實業有限公司

・現在、JA 全農の協力を得て農産物（特に果物・野菜等）の台湾での普及に貢献している。日本産は安全で安心、美味しいことから評価が高く、商田實業としても中心事業となっている。

・香港と台湾の鶏卵の輸入の背景は全く違う。前者は生産基盤がなく、ほぼ輸入に依存しているのに対し、後者は生産基盤を持っている中への参入となる。関税も 30% と高く、現在、商田實業では利益を乗せずには先ずはトライアルをしている段階。

・日本産が一目でわかるトレードマークはインパクトがあることから、早々にパッケージに追加記載することを依頼された。

## (3) 太冠國際開發事業有限公司

日本からの鶏卵の輸入についての印象

- ・鶏卵は、生鮮品で鮮度が重要であると感じる。 エアー便での物流のイメージがある。
- ・関税が、30%あり、価格面では台湾産に対抗できない。
- ・鶏卵専門問屋が店舗直送しており、物流の面でもクリアすべき点がある。
- ・スーパーへの棚割りを確保する為の、フィーを取られる。

## (4) 中華民國禽肉行銷發展協會（家禽肉協会）

・中華民國禽肉行銷發展協會のホームページを見る限りでは、家禽肉の業界団体の様であり、鶏卵業者団体ではない様だが、その場には鶏卵販売業者が 2 社 3 名及び台湾中央畜産会同席。 鶏卵販売業者よりは台湾では温度管理（25℃以下）している鶏卵は全体の 20%程度であることなどの説明があった。 家禽肉協会長よりは、

- ・鶏卵は生なので賞味期限が短く日本から持ってくるメリットはあるのか
  - ・関税が 30%もあるのにメリットが有るのか
  - ・台湾は親日なので日本の卵の優位性を出せば台湾市場に参入できる。 それをどのように出すのか。
- というコメントがあった。

## ※台湾の鶏卵相場について

・相場は農業委員会が毎日発表している。

[http://tw.chinyieggs.com/customer\\_service.php?cid=5](http://tw.chinyieggs.com/customer_service.php?cid=5)

台湾の鶏卵相場表 3月1日 (上記URLのホームページから)

価格は台湾ドル建て/公斤(600g)当たり 1台湾ドル=¥3.5

### 1) 原卵相場

地区	台北	台中	台南
原卵	卸売 42 (¥245/Kg)	卸売 42	37(¥216)
農家⇒G P	大量 37.5 (¥219/Kg)	大量 37.5	

卸売 42 台湾ドルは公斤 (600 g) 当たりの価格であり、日本円換算では¥245/キロとなる。 台南は産地ということで、37 台湾ドルと台北、台中に比べて安い。 これは農家がG Pに売る価格である。

### 2) 製品卵 (洗浄済み) G P⇒二次問屋

- 1) 12 公斤 (720g) バルク 44 (¥257/Kg)
- 2) 12 公斤 (720 g) トレー 45 (¥263 / Kg)
- 3) 10 個入りパック (中、大) 49(¥286/ Kg)

### 3) 製品卵 (CAS 認証卵)

- 1) 13.2 公斤 (792 g) 10 個パック 53(¥309/ Kg)
- 2) 10 個入りパック (M) 53(¥309/ Kg)
- 3) 10 個入りパック (L) 53(¥309/ Kg)

### 4) 業務用 (1 コンテナ=30 卵トレー X8 枚入り)

- 1) L L (67.5 g 平均) 卸売 44(¥257/Kg)
- 2) L (62.5 g 平均) 卸売 44(¥257/Kg)
- 3) M (57.5 g 平均) 卸売 44(¥257/Kg)
- 4) S (52.5 g 平均) 卸売 45(¥263/Kg)

卵のサイズは 大 L 60-66 g、中 M 54-60 g、小 S 48-54 g と、6 グラムおきとなっているが、何故か業務用の中心卵重は5 グラムおきとなっている。 また製品卵の価格はS以外はサイズに関係なく、同一価格となっている。

## ⑤今回の出張から・・・「日本のたまご」輸出拡大策について

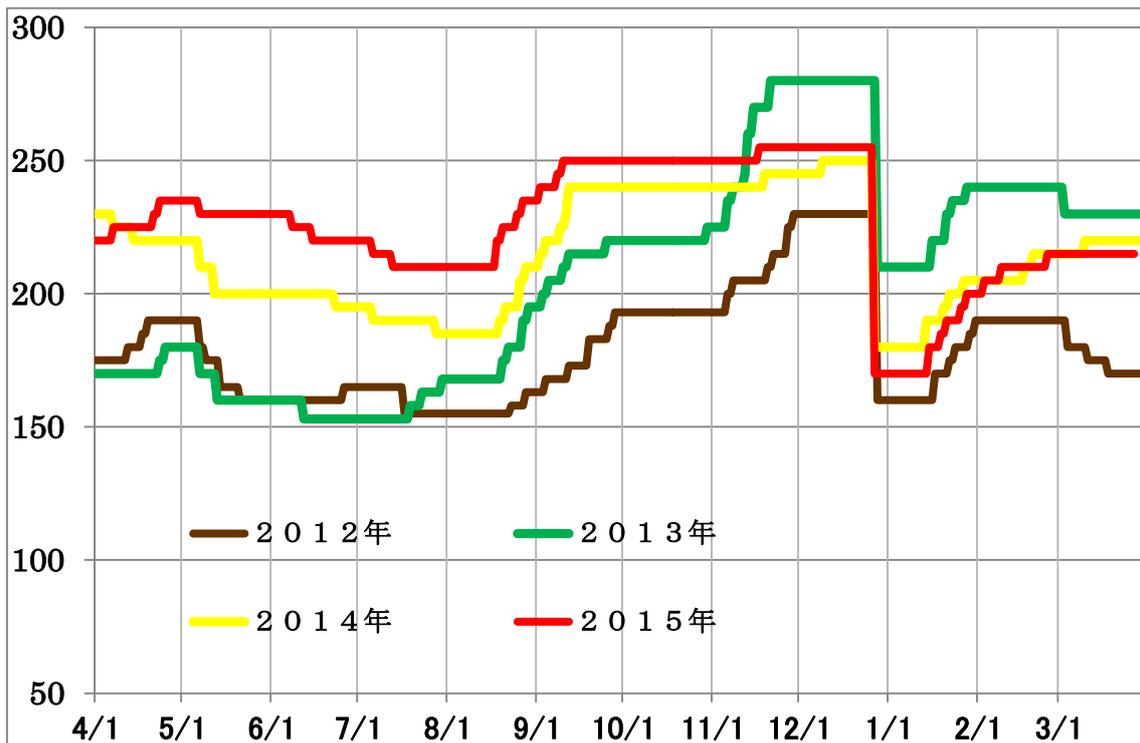
- (1) 香港、シンガポールは食料そのものが殆ど輸入であるのに対して、台湾では鶏卵の自給率がほぼ 100%ということが大きく違う。そのため台湾向け鶏卵には 30%という関税が賦課される。
- (2) 但し香港、シンガポールと違い台湾は親日国であり、日本の食品、生鮮物に対する評価が高い。
- (3) 台湾での鳥インフルエンザはアヒルに多いということから、あまり深刻感が無い様である。但し家禽肉協会会長によれば採卵鶏農場でアヒルも飼育するのは普通であるとのことであり、AI 爆発により採卵鶏農場が打撃を受ける可能性が十分にある。この可能性から台湾は最近になって日本とオーストラリアに対して鶏卵輸入解禁したのではないかとも考えられる。流通業者にとっては輸入鶏卵取扱は AI 対策のためのリスクヘッジになると思われる。
- (4) 今回初めて台湾が輸入したオーストラリア産、日本産とも高級スーパーでの売価が 1 個 70 円台で極めて高い。これは台湾産との棲み分けをするということと、最初の輸入であり値位置を探るためにあえて高価格に設定しているものと考えられる。今後競争原理が働き、中流スーパーで輸入鶏卵を販売することになると、現在の価格レベルよりも低くしていくことになり、輸入量も増加し値位置がある程度決まっていくことになろう。
- (5) 「日本のたまご」として台湾産鶏卵との差をどの様に出していくかによって、今後の販売が左右されることは言うまでもない。台湾産鶏卵では抗生物質・抗菌剤の検出率が高いことがあるので、「日本のたまご」では有り得ないということを訴求することも一つの差であろう。
- (6) 「日本のたまご」を表現するものとしてのロゴマークを普及させ、ロゴマーク付の「日本のたまご」は安心安全である、という PR を徹底して分科会中心で行う。また各種のイベントを通じて、台湾の流通業者と連動してのフェアを開催し、「日本のたまご」ロゴマークの浸透を図っていく。

## 【相場動向】 過去 10 年間の 2 月相場

	平均値	高値	安値
平成19年	193	195	185
平成20年	190	195	170
平成21年	186	190	180
平成22年	194	195	185
平成23年	203	205	195
平成24年	185	185	185
平成25年	190	190	190
平成26年	240	240	240
平成27年	209	215	205
平成28年	209	215	200
平均値	200	203	194

平成 28 年 2 月の鶏卵相場（東京全農 M サイズ）は 209 円となりました。これは昨年の 2 月と同じとなり、先月の平均値 187 円より 27 円高くなりました。

## 【鶏卵相場推移 2012 年～2015 年 会計年度 東京全農 M サイズ 円/Kg】



1 月以降、過去 2 年間よりは低いレベルで推移しています。

## 【鶏卵関係主要計数】平成 28 年 1 月までの 1 年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	東京全農M	本年
2月	8,273	102.6%	449	101.4%	819	101.9%	209	240
3月	9,263	107.3%	480	97.3%	851	103.6%	219	230
4月	8,411	95.9%	479	103.5%	838	107.0%	227	223
5月	8,989	101.6%	451	94.9%	856	100.0%	230	204
6月	9,084	102.8%	454	101.6%	803	94.5%	223	199
7月	8,831	99.6%	461	102.3%	818	101.1%	213	190
8月	7,502	103.0%	427	100.2%	805	100.5%	219	192
9月	8,444	95.6%	455	101.0%	802	97.2%	247	231
10月	8,862	104.3%	476	97.6%	851	103.9%	250	240
11月	8,518	104.7%	461	101.6%	842	99.8%	252	242
12月	9,070	103.0%	518	97.1%	850	96.7%	255	248
28年1月	8,317	97.8%	448	96.9%	833	108.9%	182	192
1年間小計	103,564	101.1%	5,558	99.5%	9,970	101.1%	227	219

雛餌付羽数は10月～12月と前年同月対比増が続いていましたが、1月は前年対比2.2%減となりました。配合飼料出荷量は2カ月連続で前年同月対比減となっています。家計消費量は11月、12月の減少分をカバーするかの様に、前年同月対比8.9%の大幅増となっています。

## 【鶏卵流通統計発表】

平成 27 年の鶏卵生産量が農林水産省より発表されました。(数量単位：ト)

(1) 月ごと生産量前年対比

(2) 過去 10 年間の生産量

	平成27年	平成26年
1月	205,626	206,422
2月	194,117	195,067
3月	214,042	213,033
4月	209,584	206,889
5月	213,873	214,915
6月	208,916	203,948
7月	212,343	210,181
8月	207,932	205,653
9月	207,767	206,299
10月	215,345	212,941
11月	210,303	206,579
12月	221,025	219,994
合計	2,520,873	2,501,921

年	生産量	前年対比
18年	2,487,696	100.3%
19年	2,583,292	103.8%
20年	2,553,557	98.8%
21年	2,507,542	98.2%
22年	2,515,323	100.3%
23年	2,482,628	98.7%
24年	2,506,768	101.0%
25年	2,521,974	100.6%
26年	2,501,921	99.2%
27年	2,520,873	100.8%

(3) 生産量ベスト 20

	都道府県	平成27年	平成26年	増減
1	茨城	202,204	190,350	106.2%
2	千葉	174,197	171,977	101.3%
3	鹿児島	167,707	166,023	101.0%
4	広島	131,796	133,337	98.8%
5	岡山	124,736	126,246	98.8%
6	北海道	107,692	105,991	101.6%
7	愛知	103,888	114,141	91.0%
8	青森	100,407	95,948	104.6%
9	新潟	96,339	110,057	87.5%
10	兵庫	89,346	81,803	109.2%
11	三重	82,799	81,535	101.6%
12	岩手	79,522	78,827	100.9%
13	宮城	79,282	71,687	110.6%
14	群馬	78,962	75,470	104.6%
15	香川	76,763	72,371	106.1%
16	静岡	70,036	67,048	104.5%
17	岐阜	63,946	70,720	90.4%
18	福島	60,048	57,702	104.1%
19	宮崎	58,858	60,250	97.7%
20	栃木	56,693	57,420	98.7%
	全国合計	2,520,873	2,501,921	100.8%

一昨年から昨年にかけての鶏卵生産量は微増となっています。生産量ベスト 20 の都道府県のうち、増加は 13 都道府県、減少は 7 県となっています。特に愛知県と新潟県の減少が目につきます。

【協会活動報告】 [\(下線色付き部分はホームページに連結\)](#)

①各種事業についての報告

[\(1\) 鶏卵生産者経営安定対策事業](#)

1) 価格差補填事業の事業参加者との契約数量 (月当たりト)

平成 25 年度	164,822
平成 26 年度	160,792
平成 27 年度	161,936

・ 2 月の標準取引価格 203.61 円/Kg  
(補填なし)

## (2) 外食産業等と連携した畜産物の需要拡大対策事業

3月10日に関係者を集めて本事業に対する説明会を行いました。応募締め切り後、3月24日に学識経験者による選考委員会を開催しました。

## (3) 畜産物輸出特別支援事業（鶏卵輸出準備分科会）

- ・平成27年度畜産物輸出特別支援事業の一環として2月28日 - 3月3日 台湾調査（今月号の特集参照）、2月29日 - 3月シンガポールミニフェア、3月4日 - 7日 香港セミナーと合計14名が海外出張を行いました。
- ・上記の海外調査等を受けて3月17日に「流通等検討委員会」が開催され、輸出拡大策が検討されました。

## (4) 家畜防疫互助基金支援事業

3月25日に全国の関係者にご参集頂き、28年度事業についての説明会を行いました。

### ②会議

#### ・組織問題委員会

3月21日に組織問題委員会が開催されました。理事選出ルール等について真剣な検討が行われました。

#### ・今後の予定

- 3月30日（水）正副会長会議、理事会
- 4月12日（火）組織問題委員会
- 4月13日（水）国産鶏卵普及問題対策委員会
- 4月25日（月）理事会
- 5月24日（火）審議委員会
- 5月25日（水）正副会長会議、理事会
- 6月16日（木）総会

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号馬事畜産会館内（5階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2016年3月29日

編集・発行責任者：島田博([fuwatama@jpa.or.jp](mailto:fuwatama@jpa.or.jp))